

【議会報告会】

○市立四日市病院の医療事故の報告体制が問題となっているが、問題となった事案については、どのような基準に基づき、非公表となったのか把握しているか。

⇒議員 市立四日市病院医療事故公表基準によれば、医療過誤により患者を死亡させた場合は公表することとなっているが、当事案に関しては、院内の医療安全管理委員会において明らかな医療過誤であるとは判断されなかったことから、非公表となったものと認識している。

⇒議員 医療過誤に該当するか否かの判断は院内の検討会議において行われ、医療過誤に該当しなければ市長にも議会にも報告されてこなかったというこれまでの体制については、大きな問題があると思うが、この点につき、病院側から改善策を早期に当委員会に対しても示されることとなっている。その内容を確認の上、議会としても、より市民から信頼される市立病院の構築に全力で取り組んでいきたい。

○平成27年10月より、国において医療事故調査制度が開始されたが、市立病院ではどのような準備がなされてきたのか。

⇒議員 一般質問で取り上げられたこともあるが、当委員会において議論はなく、直近の状況については分かりかねる。

○以前、急なけがで市立病院のERを受診したが、診察後に何の処置もなく帰され、やむなく家で処置をしたという事例を聞いている。また、自分自身も、予約した日時に待たされたあげく、担当医師が休みであったという経験もあり、現在の市立病院に対しては不信感を持っている方も多いのではないかと考える。もう少し患者の目線に立った対応が必要ではないかと考えるが、ERの実情や体制についても目を向けるべきではないか。

⇒議員 患者のプライバシー保護の観点から、これまでは医療事故等につき踏み込んだ議論ができなかったことは申し訳なく思っている。ERの体制に不備があるのであれば、今後、適正な対応を担保するためにも改善していくことが重要であると考えている。

○市立病院のERにおけるトリアージの方法は現状で適切なのか。また、現在のERは第一段階で研修医が救急患者を診察するという体制となっていると考えるが、さまざまな医師の意見を聴く余裕があるのか疑問である。その他、人員やベッドの状況から特定の疾患については受け入れを断ることもあると聞いている。本市では最高の病院であると考えているが、施設の整備等だけでなく、ERの受け入れ体制の整備もしっかり行っていく必要があるのではないか。

○相談窓口である「サルビア」についても敷居が高く、気軽に相談に行けないという意見も聞いているため、もう少しオープンに相談できるような体制を作してほしい。

⇒議員 現在の院内トリアージについては、救急搬送された場合と、自家用車等で病院に入った場合で対応が異なっているが、患者の状況に応じた順位付けを臨機応変に行わなければならないと考える。トリアージは救急医療における入口であり、これがしっかりしていなければ以降の対応にも問題が起きかねない。今後、相談窓口の体制も含め、ERの体制や、トリアージの対応の見直し、医師の配置等についても議論し、改善すべき部分は改善を求めていきたい。

【シティ・ミーティング】

○伊勢茶については全国第三位であるが、他県においてはそれほど知られていない。また、大矢知手延素麺についても歴史は古いものの、それが四日市のものであるとはあまり知られていない。地場産品についてももう少し効果的にPRをすべきではないか。

⇒議員 商品のPRについては、基本的には事業者が努力すべきものであり、それをサポートするのが市の役割であると考えている。事業者の独創力をもって全国、世界にPRすることが基本コンセプトとなるのではないかと。

⇒議員 SNSの活用など、商品のPRの手法は近年大きく変わってきているため、事業者側の努力はもちろんのこと、その手法を行政が調査研究した上で事業者に周知し、事業者と行政がともに進んでいくという姿勢が必要であると感じている。

⇒議員 本市で開発された萬古焼の電磁調理用の土鍋については、著名人にその調理風景をSNSに投稿いただいております。このようなPR手法も重要であると考えています。様々な手法により、良質な商品を積極的にPRしていきたい。

⇒議員 本市の地場産品は全国的に人気のある商品もある反面、市民がそれを知らないという実態もあると感じている。良質な商品が多いため、サミットの開催に合わせて

PRし、マスコミに取り上げてもらうことが効果的であると考え。また、シティプロモーションの一環として、観光コースの中で売り込み、振興につなげることも考えられる。たとえば、北勢バイパスの開通に合わせて道の駅を整備し、そこで製造から販売まで行うといった手法もあるため、何とか一步前へ出た施策を展開していきたい。また、地場産品のPRに本市ゆかりの観光大使を活用することも有効と考える。

⇒議員 茶業については、水沢の茶業振興センターの移転建替えが行われるため、その完成に合わせ、まずは市民をそこへ引き寄せ、効果的に売り込むことにより、ひいては全国的、世界的なPRにつながっていくのではないかと考える。

⇒議員 茶業振興センターの存在がこれまではあまり市民にも知られていなかったと感じているが、移転建替えを契機に多くの市民の方が来ていただけるような施設としていきたい。

⇒議員 冷麦は、大矢知地区の独特のものであり、地場産業として定着しているが、生産者の数が減少している。製造に当たって大きな音が出るため、まちなかで事業を行うことが難しいとの声もあるが、何とか大矢知という地名の中で作業ができるような環境整備に努めたい。当産業を維持するためにも、市民の方にも消費いただき、PRにつなげてほしい。

⇒議員 本市では、ふるさと納税をしていただいた方に、記念品として地場産品を贈呈している。本市の財政も潤う上に、地場産業の振興にも貢献できる制度であるため、ぜひ紹介していただきたい。